

## 第104回全国算数・数学教育（島根）大会

## 報告

第104回全国算数・数学教育研究（島根）大会は、講習会が8月2日（火）、3日（水）、研究大会が同4日（木）、5日（金）の日程で開催された。新型コロナの影響で、オンラインでの開催となった。

本大会の研究主題は「数学的に考える資質・能力を育成するための学びの実現」とされた。新しい学習指導要領が年次進行で施行され、すべての校種で動き出す年である。新学習指導要領の算数・数学科の目標の冒頭には、共通して「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とある。また、育成を目指す資質・能力とは何かをまずはっきりさせ、それらを育成するためにどのような内容を扱うのか、またそれに適した指導法とは何かを検討されている。そこでは、「数学的活動」を通して、主体的・対話的に、そして深く学ぶことが求められている。

島根大会では、そういった学習指導要領の意図が学校教育の実践の中で実現できたかを問い、議論することが目指された。

8月4日（木）  
9:30～10:00 開会式

10:15～11:50 全体講演  
演題「計量する民主主義—市民社会で数学的活動はどう機能するか—」  
独立行政法人教職員支援機構上席フェロー、  
元OECD教育スキル局政策アナリスト 百合田 真樹人

13:00～15:00 シンポジウム  
テーマ「資質・能力ベースの学習指導要領は算数・数学の授業をいかに変えるか」  
コーディネーター 元お茶の水女子大学 加々美 勝久  
シンポジスト  
東京都立川市立幸小学校 教諭 小泉 友  
千葉大学教育学部附属中学校 教諭 加藤 幸太  
愛知県立旭丘高等学校 教諭 田中 紀子  
島根県教育庁益田教育事務所（益田市派遣）  
指導主事 植田 幸司  
奈良教育大学 准教授 舟橋 友香

15:20～16:50 部会講演  
幼稚園・小学校部会  
演題「プロセス思考に基づく授業構成とその評価—数学的態度の育成—」  
鳥取大学 名誉教授 矢部 敏昭

中学校部会  
演題「算数と数学の一貫性を意図した中学校数学の授業づくり」  
岡山大学学術研究院教育学域 教授 岡崎 正和

高等学校部会  
演題「数学的な見方・考え方を働かせること」  
奈良学園大学人間教育学部 教授 吉田 明史

高専・大学部会 I

8月5日（金）  
9:00～12:15, 13:00～16:15  
幼稚園・小学校部会 I, II  
中学校部会 I, II  
高等学校部会 I, II  
高専・大学部会 II, III

本大会においても、都数研から多数の参加があった。

16:30～17:00 閉会式

講習会における、高等学校に係る内容はつぎのとおりである。

西村 圭一（東京学芸大学）  
数学的に考える態度を育む授業づくり

佐伯 昭彦（鳴門教育大学）  
生徒の数学的態度を活性化させる問題の開発について

御園 真史（島根大学）  
キャリア教育につなげる数学の指導

第105回（青森）大会についても、本大会同様にオンラインによる開催がアナウンスされている。研究主題として「学びを社会に生かす教育を目指して—子どもがつくる算数・数学授業の創造—」が掲げられている。